

学校教育目標		平成30年度 西東京市立ひばりが丘中学校 学校自己評価表									
学校教育目標		広く国際社会を創造性豊かに、たくましく生きる人をめざして ・自ら学ぶ ・豊かな心 ・夢の実現									
目指す学校像		「明日が待たれる学校」 ●生徒の力を伸ばし、一人一人が主役となれる学校 ●生徒、保護者、地域から信頼を寄せられる学校 ●組織力が高く、柔軟な対応力や確実な実行力のある学校									
【目指す学校像】		「知・徳・体のバランスがとれた生徒」 ●社会自立に向け、自らを高めていく生徒 ●授業を大切にし、自ら考え学ぶ生徒 ●豊かな心に根ざして、希望をもち、将来を切り拓く生徒 ●健康と体力増進の自ら努める生徒									
【目指す生徒像】		「高い実践的指導力をもつ教師」 ●授業力をはじめ、指導力を日々高めていく教師 ●率先垂範する教師 ●協働するとともに、互いに高め合う教師 ●体罰その他の服務事故ゼロに全力で取り組む教師									
【目指す教師像】											
本校の実態と課題		○小中一貫教育を意識した教育活動の研究と「生徒が主体的に考え行動する力の育成」をテーマに、全教員が主体的・対話的で深い学びとなる授業づくりを実践してきた。また、生徒会、各種委員会等の取組を意図的・計画的に行うことで、生徒は授業では、話し合い活動を通して理解を深められたり、学校生活では、自分からあいさつができる生徒に成長し、自己肯定感が向上した生徒も増加している。今後は、近隣小学校との円滑な接続と学びの連続性を重視した教育活動の展開と自分の考えを分かりやすく相手に伝える力の育成が課題となる。 ○都からスーパーアクティブスクールの研究指定を受け、全ての生徒の体力向上を図るため、元オリンピック大石博暁氏による「ジュニア期に必要な身体を巧みに動かすトレーニング(身体操作法)」や株式会社明治の方による「成長期の運動と食事」を演題とした講演会、全校生徒による体育行事委員の生徒が提案した「スーパーアクティブタイム」の実践等を実施した。3年間の取組から生徒の運動に対する意識変化や意欲の向上だけでなく、トレーニングの積み重ねの効果が結果として表れた。今後は、取組成果について分かりやすく外部へ発信することや取組内容を発展・充実させていくことが課題となる。 ○おやじ倶楽部による職業講話、保護者の協力による部活動支援員やトライ&チャレンジ等、学校を支える多くの方々の協力をいただいた。今後も引き続き、気持ちよく相互互惠関係の構築を図り、学校・保護者・地域の行動連携を継続していく。									
	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標		取り組みと分析	改善策		
				中間	年間	中間	年間				
確かな学力の向上	「自ら学ぶ」 生涯に渡り、人生を豊かに切り開いていくことのできる「確かな学力」を育む	各教科における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	授業中の確認テスト等の実施、定期考査前の補習教室や個別支援学習、長期休業中の補習を充実させる	3	3	4	3	教科の特性に応じ、授業内で学習内容の定着を図るテスト等を実施してきた。また、定期考査前の補習教室は、考査1週間前から実施し、極力同じ日に複数教科の実施がされないように配慮した。補習教室への参加率も上がり、生徒が主体的に学ぶ機会が増した一方、日頃の家庭学習ができていないという意見もでていることから、対策が必要と考える。	定期考査前の補習教室の実施は1週間前は妥当と考えている。同じ日に複数教科とならないようにしていく。さらに、日頃の家庭学習を怠らないことを意識させるためにも、積み重ねに重点を置いた授業の展開や課題設定・発問の工夫等の研究を重ねるとともに、普段から授業で分からなかった内容を定期考査前まで引きずらず、普段から昼休みや放課後に質問できることを生徒に伝達していく。		
			生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業づくりと日々の指導法の工夫・研究や定期考査、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」、「全国学力学習状況調査」等の結果をふまえた組織的な授業改善	4	4	4	4	生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向け各教科で研究・検証を進めた。各教室にミニホワイトボードを設置し、各教科等の班活動で活用した。ボードを使うだけで、主体的に話し合い、問題解決に向かう授業を取り入れたことで生徒の主体的・対話的で深い学びにつながり、保護者からも評価されている。都の調査や国の学力調査においても、各教科で平均を上回る成果が得られた。	保護者学校評価において、生徒の思考・判断・表現力の向上に繋がっているという評価も得られているが、全校としての数値としては満足のいくものではない。今後も各教科において研究・検証を推進していく必要がある。また、「相手の考えを最後まで聞き、その内容を理解しようしたり、相手に伝える際、どのように説明すれば相手に伝わるか工夫して発表する力」を身に付けていくことも今後の課題であり、各教科において工夫を図っていく。		
			言語活動の充実と思考力・判断力・表現力等の育成と課題解決できる能力の向上を図る	学校図書館の活用と朝読書やブックカフェの実施により、全生徒が活字に親しめる取組を推進する	4	4	4	4	朝読書は、年間通して、どの学級もとても静かな環境で実施できていた。また、ブックカフェは3年目になるが、企画・運営は図書部・図書委の生徒が行った。全校生徒への図書の楽しさや深さを伝えられ、文武両道の精神を深められた。	図書館司書教諭の不在日に昼休み図書室開放を行うことで、さらなる読書活動の推進を図るためことを検討している。また、ブックカフェの取組のPDCAサイクルに基づいた見直しを通して、生徒の主体的な思考力・判断力・表現力の向上を図りたい。	
			スーパーアクティブスクール(体力向上推進校)としてオリンピック・パラリンピック教育の充実と外部人材を活用した授業づくりを推進する	4	4	5	5	体力向上推進校として、3年連続で元オリンピック大石博暁さんによる実技講習会を実施した。また、3月には、「成長期の運動と食事」を演題とした講演会も行い、スポーツへの興味・関心を高めることができた。生徒主体で取り組む「スーパーアクティブタイム」や体育科授業で行う「ひばりランニング」を中心に生徒の体力テストの結果が向上している。これらの取組が保護者からも評価されている。その他にも海外の留学生を招いた国際交流授業や落語講演会の実施等、外部人材を生かした授業を展開できた。	外部人材の活用は、日頃の授業では聞けない講演や実演ができ、生徒が心身とも成長できる一助となり、本校の教育活動のなかでも教育効果が高いという評価を得られた。広く国際社会を創造性豊かに生きる人材育成を目指す本校にとっては貴重な教育活動の場であり、来年度も引き続き、継続した講師派遣をお願いしていきたい。		
豊かな心の育成	「豊かな心」 全教育活動を通して、「心の教育」を推進し、自尊感情や自校肯定感を高める指導の充実と自他の生命と人格を尊重し、互いを認め、高め合える「豊かな人間性」を育む	「特別の教科 道徳」を要とした全教育活動を通して、自他の立場を尊重でき、自己肯定感を高められる生徒の育成を図る	人権感覚・人権意識の向上を図るため、人権カレンダーの作成や生徒会や生活委員会を主体とした朝のあいさつ運動の推進を図る	3	3	4	5	保護者学校評価にある「わが子は自分からあいさつができる」という質問項目に対しての回答が前期に比べ後期では「とても思う」の数値が11%向上し、来校者や地域からも「気持ちのいいあいさつができる」と高い評価をいただいている。生徒会や生活委員が主体となって取組んだ朝のあいさつ運動等の効果だととらえている。	人権カレンダーの活用を見直しを図る。ただの日めくりカレンダーのように掲示されて終わりではもったいない。また、ひばり月間を形骸化せず、自分たちの生活の意識の向上を目的とした、目標のための目標とならないよう、簡素化していく。		
			道徳授業地区公開講座や道徳の時間では、各学年の発達段階に応じた内容項目に沿った生徒の心に残る教材を通して、人格形成を図る	4	4	3	3	7月に実施した道徳授業地区公開講座では、土曜開催とあって、多くの保護者様にご参観いただいた。また、本校体育館委において、教育支援アドバイザー渡邊圭太郎氏を講師にお招きし講演会を実施した。講演会後の意見交換会では、保護者も交えて生徒の道徳心を耕し、深め、培うために活発な意見交換が行われた。来年度の道徳の教科化に向けて、学習指導要領に示されている目標や目的について理解を深める講演会も実施し、研修を重ねることができた。	教科化に向けて教科書を中核とした授業だけでなく、旬な話題を取り入れた教材を取り入れることで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。そのために、毎時間の授業の振り返りを重視し、生徒の成長を見守り、認め励まし、自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価を目指していく。また、生活指導では、道徳授業で学んだことに帰着させる指導を心がけていきたい。		
			「正しい規範意識」を育て、「だれもが楽しいと思える学校生活」を送れる凛とした生徒を育成する	4	4	3	4	良いことと悪いことの分別をしっかりと全教員がふれずに指導しようとしてきた。その上で生徒が自分たちで考え、ルールづくりを行い、正しい規範意識を育てる工夫を行った。また、程度に関係なくいじめに繋がるだろう案件を吸い上げ、「いじめ防止対策委員会」と「生活指導部会」で共通理解を図り、共通実践のもと迅速な対応を行えた。	SNSIに関するトラブル、不要な書き込み等を回避するため、道徳の時間や学活、あるいは各教科で、豊かなコミュニケーションを通して、自分の気持ちや思いを整理して、正しい言葉で表現できる生徒を育成すべく、道徳教育推進委員の教師と生活指導主任等が連携し、組織的に指導できる体制を構築していく。また、更なる共通理解・共通実践、迅速な対応、外部との連携を通して学校組織としての向上を図る。		
夢の実現	「夢の実現」 自分の将来の希望をもち、その実現に向けた努力を惜しまない生徒育成する	自分の住む地域と自然に愛着をもち、伝統と文化を尊重し、社会に貢献する心を育成する	ボランティア精神を培い、ボランティア活動を通して、地域や学校を自分たちで大切にできる無償の精神を育成する	3	3	3	4	11月に実施したトライ&チャレンジ(全校生徒による街の清掃活動)や有志による谷戸ふるさと祭り参加等ボランティア活動に積極的に参加することができた。トライ&チャレンジには保護者も参加していただき、活動中には、地域の方々からも温かいお言葉を頂戴し、大変喜ばれた。次年度以降もの継続してもらいたい取組だと評価いただいた。3月に実施したデイスービス訪問も大変喜ばれた。	トライ&チャレンジが全校体制で実施してから3年目となるが、学校評価の数値としては、思わしくないことも事実である。保護者への周知との参加の呼びかけを強化していきたい。来年度は、小中一貫教育の研究を通して、小中合同での清掃活動を予定している。小学生をリードするとともにボランティアマインドの育成の一助としたい。また、清掃範囲の拡大も考え、小学校との密な連携が不可欠であり、「ただ実施した」で終わらず、事前事後の指導についても考えていく必要がある。		
			中学卒業後の進路を自分の問題としてとらえ、キャリア教育を通して、望ましい職業観を育成し、進路選択できる生徒を育成する	おやじ倶楽部の職業講話、職場体験、進路学習等を通して、自分をみつめ、自分を知ることで、具体的な目標を設定し、その実現に向け、努力を惜しまない生徒を育成する	4	4	4	4	おやじ倶楽部の方による各学年において講演会が実施された(1年:職業講話、2年:職場体験前の事前講話、3年:卒業前の進路講話)。保護者や教師以外の大人の方からの講話は生徒の心に響き、「夢の実現」に向けた取組となり、保護者からも高い評価をいただいている。また、今年度の進路指導について、3年間を見通したキャリア教育の成果の表れと学校関係者より評価された。	おやじ倶楽部の方による講話等のイベント以外の普段の進路学習・進路指導では、3年生の進路指導を行う前に、段階的に行う必要がある。各学年に一任せず、進路生き方部と各学年が連携し、本校の進める進路指導を実施することで、生徒や保護者が進路に対し、1年生保護者会等で、卒業後の進路選択や現段階での入試の制度等について伝えることで、無用な不安を与えない配慮を継続して行いたい。	
			学校生活の中で、すべての生徒が自分の長所をみつけ、伸ばし、集団の中で自己の役割を果たす生徒の育成	学校行事、学年行事、委員会活動、係活動等への自発的参加により、本校の生徒の一員である自覚をもち、生きがいのもてる生徒を育成する	4	5	4	5	運動会や合唱祭、ひばり文化の日といった学校行事、校外学習、球技大会といった学年行事など、生徒による実行委員会の組織が先頭に立ち、行事を盛り上げるなど、生徒の自主性、生徒の自治組織を大切にした指導が評価された。作品展における生徒作品から教師の問いに対する生徒自身の真剣な思いや考えが伝わってきたとの評価もいただいた。	生徒会が企画した笑顔の花を満開にしよう運動(学級全員で朝のあいさつ運動)や校歌響化ウィーク、ノーチャイムデーの実施など生徒の発想を実現させるため、今後も惜しまない指導・助言を与えていきたい。	